

いつも積極的に挑戦される方!

●今宵は先輩のお通夜に参列

さて、今宵は春日部地区浦高会の会員で先輩の小澤重二様のお通夜に参列する予定です。小澤様は春日部地区浦高会のさまざまな行事に積極的に参加していただき、いつも快くご支援をいただいております有難い先輩の一人でした。2018年12月の湘南浦高会主催の「紅葉の鎌倉を歩く」にも鳥井隆一郎さん(11回)と一緒に3人で参加させていただきました(写真下)。また、上野の版画展にもご一緒させていただきました。ゴルフのお付き合いはできませんでしたが、11回の皆さんで月1回はプレーされていたようです。心からご冥福をお祈りしたいと思います。



中央、エンジのジャンパーが小澤様



お猿島の大切岸に向かう



そんな小澤様から、春日部地区浦高会創立20周年誌『喫茶去 ~特別編』に近況を寄せていただいた文がございます。哀悼の思いを込めてご披露させていただきます。

◇ ◇

■「80の手習い」 高11回 小澤 重二

一昨年8月、経営の現役を引退し午前中のみの勤務とする暮らしになった。事務所で昼食をとった後、自宅に戻り新聞に目を通し、午後2時ころより約1時間半ウォーキング、その後「池波正太郎」ものを読む。そんな日を半年程続けた。その年の暮れに浦高同期の岩寄正さんからもう使わなくなったと立派な碁盤碁石をいただいた。

4年ほど前より「ゴ楽会」という春日部高OBのゴルフの仲間に入れてもらっているが、そのゴ楽会の昼食時、碁盤と碁石を頂戴したことを話すと、この「ゴ楽会」はもともと碁の仲間が母体なので是非「碁楽会」に入れといわれ、昨年1月より毎週土曜日の碁会に参加することになった。当初3ヶ月は見学だったが皆有段者でとにかく強い。囲碁教室ではなく10名程の仲間でお互いに競っている碁会で初心者の小生は連戦連敗。さすがに意気消沈して4ヶ月でやめた。

そんな話を近所の老人会長に話したところ、「それならば趣味と実益を兼ねた「蕎麦打ち教室」に参加しては」と誘われ、昨年12月より参加することになった。

当初のひと月はただ見学だったが、その後指導を受けながら一人で打つ。練る水加減、練るスピード、均一にする手加減、平に延ばす技術など数回の実技ではとてもできない。それらの作業中に指導者が来られては「手ほどき」をしてくれるのだがなかなか難しい。

元来私は「日本蕎麦」が好きであり、「中華麵」はあまり好まない。市内でもまた遠出してもよく食べるのは日本蕎麦である。これらはみな玄人の作った蕎麦だったが、私は毎々手厳しく批評してきた。それが、今度は実際に自分が打ち、ゆで上がった蕎麦を口にすることになったのである。自分で苦労したと思えば結構美味いが、5~6年のキャリアのある経験者の蕎麦と比べると、先輩の蕎麦は均一に切られ、ほれほれする出来である。材料は同じなのに蕎麦自体の味まで異なるようである。現在月1度の蕎麦打ちであるが、先輩によれば、「1年ほど経験すれば他人様に食べてもらえる蕎麦を打てるようになる」とのことなので、それを目指し教室に通っている。

今のところ私の打った蕎麦を食べているのは家内だけだが、家内からも無論まだ合格点はもらえない。蕎麦好きが多い我が家では、これまで年越し蕎麦を市内の蕎麦屋から買い求めてきた。昔、実家で祖母が、たくさん栈のついた引き戸の裏側で蕎麦を打っていたことなどを思いだしつつ、今年はなんとしても我が家で、私の手打ち蕎麦で年を越したいと精進している。

◇ ◇ 小澤さんの手打ち蕎麦を頂戴できなかったことが大変残念です。合掌!

